

だれがリーダーに

－リーダーとメンバーと二つの立場で考える－

1 学年 第6学年〔中期〕

2 主題名 リーダーシップとメンバーシップ〔4－（3）〕

3 ねらい

リーダーとメンバーと両方の気持ちを考えることを通して、自分の役割を自覚し、協力してその責任を果たそうとする実践意欲を高める。

4 資料名 「だれがリーダーに」

5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 リーダーについて発表する。 ○ リーダーってどんな役割をするのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> グループの中心になって動く。 みんなをまとめる。 全体的な世話をする。 	○ リーダーという仕事の理解を図り、資料への興味付けを図る。
展開	2 資料「だれがリーダーに」を読んで話し合う。 ○ みんなはどうしてリーダーをしようと思わないのでしょうか。 ○ スタンツがなかなか決まらないとき、「めぐみ」はどんな気持ちだったのでしょうか。みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。 ○ 「あき子」から電話がかかってきた後、めぐみはどんなことを考えたのでしょうか。 ◎ 次の日、「めぐみ」はどんなふうに関心を持って話を聞いたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> めんどくさい。 どうしていいかわからない。 誰かがやってくれるだろう。 <p><めぐみの心情></p> <ul style="list-style-type: none"> みんなもちゃんと考えてよ。 もうリーダーなんてやめたい。 <p><みんなの心情></p> <ul style="list-style-type: none"> いい考えが浮かばない。 はずかしい。 誰かいい考え出してよ。 考えてくれてうれしい。 「あき子」も自分の役割を頑張っていたなあ。 自分勝手と言って悪かった。 私もみんなに助けられているんだ。 私もリーダーとして頑張ろう。 明日、声をかけてみよう。 もう一度考えてみよう。 みんなで知恵を出し合おう。 みんながいなくてできない。 いっしょに頑張ろう。 みんながリーダーなんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に考えを出し合わせる。 自分しか考えていないと思っている「めぐみ」と、人任せにしているみんなと両方の心情を比較することでお互いの立場に気付かせる。 みんなの立場や気持ちを考え直し始めている「めぐみ」の気持ちに気付かせる。 みんなの気持ちを合わせるにはどうしたらよいか、ワークシートに書くことによって一人一人に主体的に考えさせる。
	3 自分達の生活を振り返って話し合う。 ○ メンバーってどんな役割をするのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力する。 リーダーに指示に従って自分の役割を果たす。 	○ リーダーの役割と比べながら考えさせる。体験も引き出しながら話し合わせる。
終末	4 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 自分にもやれそうだな。 自分もメンバーとして協力しよう。 	○ 教師がリーダー（メンバー）として頑張った経験を話し、児童の実践意欲を高める。

6 授業の概要

(1) 主題について

我々は、社会の中で互いにかかわり支え合うことで社会を形成している。しかし、中には途中で投げ出したり、人任せにしたりしてしまう場合もある。クラブや委員会活動等、集団の中でリーダーシップをとらなくてはならない場面が増えてくる中期において、まず自分は、集団の中でどのような役割を担い、どう行動すべきなのか考えさせたい。それは必ずしもリーダーにも求められるかに限らない。リーダーを支え協力していくことも大事な役割である。人任せにせず、自分のできること、やるべきことをしっかり意識し、責任を果たそうとする実践力が集団を支えていることに気付かせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 野外活動・修学旅行・運動会・合唱祭・文化祭等、学校行事との関連を図る

学校行事はもちろん、特別活動など児童生徒の主体的な活動場面において、自分の持ち味を生かしながら活躍したり協力したりする場面をイメージさせながら、「あんなふうになりたいなあ」「できたらいいな」「できるかもしれない」といった気持ちを引き出し、主体的な活動につなげたい。

イ リーダーシップとメンバーシップの二つの立場で考える

発問でリーダー・メンバー両方の立場で考えるような発問をする。リーダーだけでなく、集団の一構成員としてどう行動すべきなのかも考えさせることで、メンバーシップについても考えさせることができる。リーダーシップの難しさが分かれば分かるほど、協力する大切さも分かってくるはずである。二つの立場で考えることでお互いの大切さを理解するようにしたい。

ウ ワークシートの活用を図る

中心発問で、自分だったらどんな声かけをするのか、実際にワークシートに書くという手法でリーダーの立場になって考えさせたい。一人一人が主体的に考える場にしたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 板書の工夫

導入ではリーダーについて、展開では自分のことしか考えていない「めぐみ」と人任せにしている班のメンバーの両者の思いを、展開後段ではメンバーの思いを出させたい。それらを図示したり、黒板の左右、あるいは上下に分けたりして対比的に板書したい。どちらかを批判するのではなく、どちらの立場も、これではまとまっていけない問題点に視覚的に気付かせ、集団の中での自分の立ち場や役割について考えさせたい。

イ 展開後段について

メンバーシップについて考えさせたい。導入のリーダーシップと対比させながら、どちらも集団の一員としての役割があることに気付かせたい。その中で、自分が今まで任された仕事や係等を想起させ、辛かった気持ちや、みんなにどうしてほしかったか、あるいは、みんなでやり遂げた満足感などを引き出すことで、これからの自分達の生活につなげ、集団の中での自分の責任を果たすことの価値を深めさせたい。

執筆者より

展開では自分のことしか考えていない「めぐみ」と人任せにしている班のメンバーの両者について、立場を変えて考えることでそれぞれの役割の大切さが分かる。自分達で気づき、自分達で作上げる楽しさを授業だけでなく生活でも味わわせたい。

(白岳小学校 揚野 恭子)